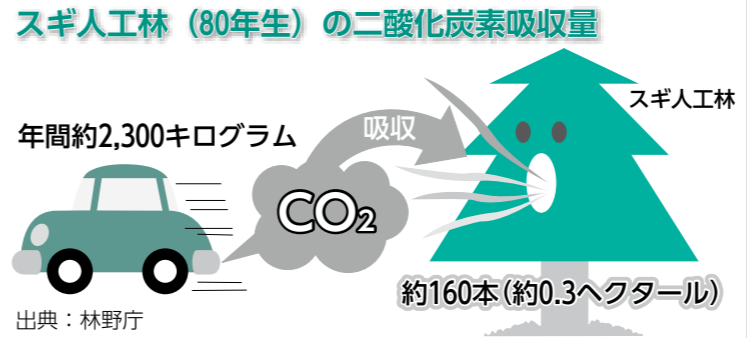
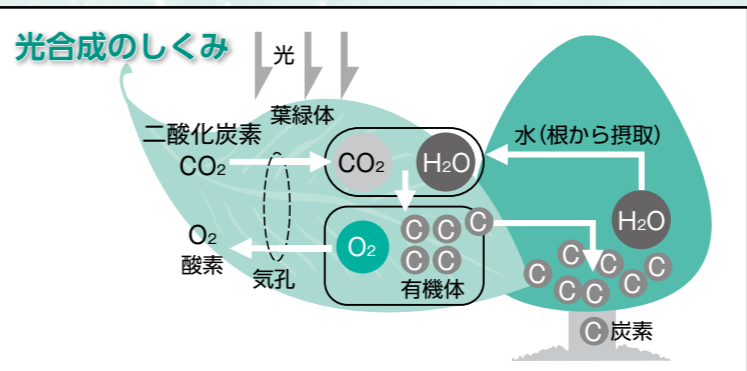


森林が持つちから

地球温暖化を防止しています

樹木は光合成によって、地球温暖化の原因の代表ともなっている二酸化炭素を吸収し、酸素を放出しながら炭素を貯え成長します。



例えば、自家用乗用車1台から1年間に排出される二酸化炭素量は約2,300キログラムです。これは適切に手入れされている80年生のスギ人工林約160本の年間吸収量と同じくらいです。

木が木材になるまでの流れ (例)

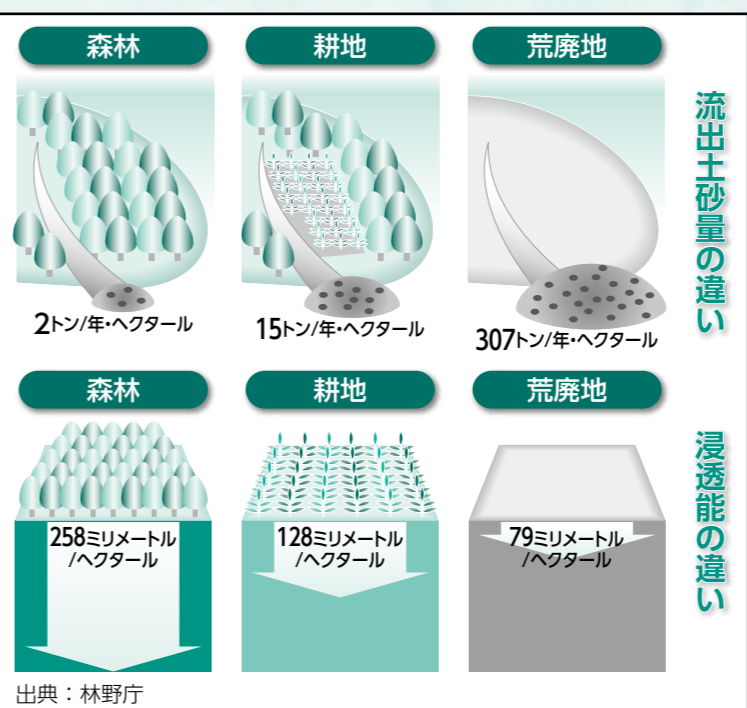


山崩れなどの山地災害を防いでいます

森林の中は木の根によって土壌が保たれています。落葉や落枝、低い木などによって地表が覆われているので、雨などによる土壌の侵食や流出が抑えられています。森林と荒地を比較した場合、土砂が流出する量は森林では荒地の約1/50分の1という報告があります。

洪水や濁水を緩和し、水質を浄化します

森林の土壌は穴が多く、スポンジのようになっていて、雨水や雪解け水を地中に浸透させます。その能力(浸透能)は荒地地の3倍以上という報告があります。また、その過程で濁りを抑えたり、窒素など水の汚れにつながる物質を取り除いたり水質を浄化してくれています。



木材が持つちから

木材空間は人の健康や心理面によい影響を与えます

木材は空気中の水分を吸収したり、放出したりする調湿作用があります。調湿作用は湿度を50%ほどに保ち、ダニの繁殖を抑制します。

また、目にやさしく、音が心地よく聞こえる作用もあります。



木造住宅は寿命が長い

一般に「樹齢1000年の木から取った木材は1000年持つ」と言われています。事実、世界最古の木造建築で知られる法隆寺は、築1300年を誇ります。一般の木造住宅でも適材適所の樹種を選択して、乾燥対策をすれば50年は十分に持つと考えられます。

木材は再生産できる資源

木材は枯渇が予測されている化石燃料に比べ、再生産可能な有機性資源です。間伐材や製材工場で発生する端材、建設廃材なども資源にすることが出来ます。

最近では、おが粉やかんな屑などを圧縮成型した木質ペレットを燃料としたペレットストーブも注目されています。



木材を利用しましょう

暮らしの中に木材のちからを生かす



森林は多くの樹木によって形成されています。木は山で成長する間には、環境破壊や災害からわたしたちを守ってくれています。木材になってからは、家や家具などになり、たとえ廃材になってもストーブなどの燃料として役立ち、最後まで人の暮らしを支えてくれる素晴らしい資源です。

その背景として最近では、建築資材が多様化して、木材を多く使用しない住宅が増えていくことがあります。また、木材も輸入した物や接着剤で張り合わせて作った柱などが利用され、国産の優れた木材の使用が減少しています。

森林をよりよい形で次の世代に引き継いでいくため、皆さんに木材の持つ力を知ってもらい、地域の木材を使った家や家具などを使用する意識を持ってほしいです。

問い合わせ先 森林課 (市役所4階) 032-2078